



東高だより

2016 No.35

〒984-0832

仙台市若林区下飯田字高野東70番地

Tel 022-289-4140 Fax 022-289-4383

<http://higasi-h.myswan.ne.jp/>

〈校長式辞〉

本校における三年というかけがえのない時の流れの中で自分という存在を確かめながら、皆さんは本校生としての歩みを進めてきました。運動会、球技大会、東風祭等、様々な行事を通し、感じ得た熱い思いは忘れられないものでしょう。部活動においても、高い目標を掲げ、仲間と励まし合い、自らが持てる力の限りを尽くしました。本校でしか出会えることのなかった友と力を合わせ、最後までやり遂げることの充実感を知ったことと思います。

本校での様々な経験の一つひとつが、十年、二十年という歳月を経ても、皆さん一人ひとりの心の中で生き続け、人生の様々な場面で皆さんを支えるものであってほしいと心から願っています。

皆さんがこれから生きていく時代は、先行きが不透明で、予測不可能な時代であるとも言われています。そして、人工知能やロボット技術の進化など、既に「第四次産業革命」の波は到来しつつあります。新しい市場を創造する激しい競争が世界規模で行われ、技術革新のスピードはかつてない速さで進行しています。それは、私たちの暮らしが豊かで便利になる一方、国際的な市場主義が生活のある面に浸透し、激しい対立を生み出す社会構造に変化していく可能性を含んでいます。このような変貌著しく、厳しい環境の中で皆さんは、自らの資質や能力を見出し、たゆまぬ努力により、その力を伸張させていくことが必要です。これからの社会は選択の自由が尊重される社会であると共に、自己責任が強く求められる社会でもあります。そのためには自らよく考え、判断し、辛いことや苦しいことにも敢然と立ち向かうことが必要です。「自分の人生は、自ら創り上げていく」ということを自覚し、一刻一瞬を大切にしながら、更なる成長につなげてほしいと考えています。

皆さんは、「高校時代」というステージから次の新たなステージに進んでいきます。それゆえ今は、未知の世界に対する不安や緊張感、そして自分で道を切り開いていくという高揚感にも包まれているかもしれません。

卒業にあたり、二つのことを皆さんにお話ししたいと思います。一つは「挑戦する意識を忘れることなく、最後まで粘り強く取り組む姿勢を持ち続けてほしい」ということです。人間の一生は決して平坦な道のりではありません。時に苦悩や挫折、失敗という事態にも遭遇します。しかし、何度つまずいても、厳しい状況に置かれたとしても、その経験が自分を大きくしてくれると信じ、諦めることなく、前に進んでほしいのです。「飛行機は向かい風があって、飛び立てるのであって、追い風に運ばれるのではない」とも言われます。失敗や厳しい局面に遭遇することは、向かい風にたえられるかもしれません。しかし、そのような辛い局面に身を置くことで、人は生きる力をつけることができるのです。逆境に対し、知恵を搾り、立ち向かい、あるいは辛抱強く我慢を重ねていくことで、自分の夢や目標に近づいていく力が徐々に備わるのではないのでしょうか。失敗や厳しい局面で諦めるのではなく、それを乗り越え、チャンスに変えようとする強い気持ちを持つことが、次のステージでの飛躍に必ず結びつくものと考えています。

二つ目は、「誠実であることの大切さ」を忘れないでほしいということです。それは、人に対して誠実であること。また自分自身に対して誠実であるということです。「誠実に勝る知恵なし」とも言われます。現実社会の中で信頼される人間であるためには、誠実であることが大原則です。ある時は仕事で円滑な協力関係を、また地域社会の中で好ましい人間関係を築き上げていくためには、相手を尊重し、自らも尊重されるような誠実な態度で接していくという姿勢が求められます。足下をしっかりと見据え、易きに流されることなく自分の目指すものに対して、誠実に、そして真摯に取り組むことが「人間としての誇りや満足感」に必ず、つながるものであると考えています。

皆さん一人ひとりが本校の卒業生であることの誇りを胸に、思いやりのある感性豊かな気持ちを携えながら、これからの人生を一步一步力強く進んでほしいと思います。そして未だ途上にある震災復興の原動力となる人材に成長されることを期待するものでもあります。希望に満ちた新たな旅立ちの日に当たり、この学び舎を育ちゆく皆さんの前途に、幸多からんことを心から祈念して「式辞」といたします。